



聖母被昇天ミサの説教

貧しい人々への愛と聖母マリア

ランディ神父 (フィリピン宣教会)

1950年ピオ12世は、マリアが地上での生涯を終えた後、身体と魂が共に天の栄光へと上げられたとする「被昇天」を信仰の教義として定義しました。被昇天はカトリック教会における最も高い格付けの祝日である「大祝日」です。また、マリアが信仰と希望の模範であること、取り次ぎの力、そして被昇天とキリストの復活とのつながりについて黙想する機会でもあります。聖母マリアの祝日は、私たちカトリック信者にとって非常に特別な日です。それは、私たちがマリアを愛しているからです。

しかし、聖母の祝日は反カトリックの人々にとっても特別な日です。なぜなら、この日はカトリックを再び攻撃し、私たちの聖母への信心を疑問視する日だからです。反カトリックの人々は、「カトリックは聖母マリアを崇拜している」と言います。カトリックの人々は、「あなたたちは聖母マリアを無視している」と言います。この2つの言葉、「崇拜 (adore)」と「無視 (ignore)」を見てください。どちらが正しいのでしょうか？実は、どちらも正しくありません。なぜなら、聖母マリアを理解するには、2つの見方があるからです。1つは「信心のマリア」、もう1つは「福音のマリア」です。「信心のマリア」は、とてもカトリック的です。ロザリオを唱えること、ルルドやファチマ、秋田などの出現地への巡礼、ファティマのマリア像にキスをすること、そして、ここ大和郡山教会で毎週水曜日に行われている「絶えざる御助けの聖母」へのノベナなどが含まれます。また、「信心のマリア」には、生花を捧げることも含まれます。なぜならこの教会は「被昇天の聖母」に捧げられているからです。しかし、兄弟姉妹の皆さん、忘れてはなりません。「信心のマリア」は常に思い出させてくれます。聖母マリアが現れた人々は、みな貧しい人々だったということを。

聖母マリアは、司教にも、神学者にも、大富豪にも、そして教皇にさえも現れたことはありません。聖母マリアが現れたのは、いつも貧しい人々でした。貧しいベルナデッタ、ファティマの子どもたちもまた貧しい人々でした。マリアはいつも、貧しい人々や社会から取り残された人々のもとに現れました。そして、それこそが私たち、マリアの子どもたちに欠けているものです。私たちがカトリックの信心に欠けているのは、マリアの子どもたちである貧しい人々への思いやりです。私たちは巡礼に行くこともできません。ロザリオを祈ることもできません。膝で歩くこともできません。ファティマやルルドに行くこともできません。

ます。家や教会にマリアの洞窟を造ることもできます。

しかし、どうか兄弟姉妹の皆さん、その信心を地に足のついたものにしてください。そして、その信心が貧しい人々の必要に目を閉ざすことがないようにしてください。なぜなら、信心が貧しい人々への奉仕と愛の業と調和するときそれは私たちにとって靈感を与え、祝福となるからです。私たちカトリック信者は、聖母マリアを賛美し、祈りと取次ぎを願い、さらにおそらくはその信心が貧しい人々への愛に根ざしていないことから、「マリアを崇拜している」と非難されることがあります。

では、反カトリックの人々はどうでしょうか。彼らは聖母マリアを無視します。そしていつもこう尋ねます——「それは聖書に書いてあるのか？」と。しかし、聖書にははっきりと記されています。「めでたし、恵みに満ちた方、主があなたとともにおられる」——これは聖書にあります。「あなたは女のうちに祝福された方」——これも聖書にあります。

兄弟姉妹の皆さん、もしプロテスタントの言葉に心が揺らいでいるなら、どうか耳を傾け、聖書を読んでください。聖書こそが最初に聖母マリアをたたえているのです。そして、イエスの母を無視することは、イエスご自身を無視することなのです。

では、聖書から聖母マリアについて何を学べるでしょうか。主はこう言われました——「私の言葉を聞いて、それを行う人は幸いである」と。この言葉は聖母にこそ、当てはまります。なぜなら、マリアは完全な弟子だからです。もし私たちが信心に対する先入観を捨て、マリアを「最初の弟子」「模範的な弟子」として見ることであれば、プロテスタントもカトリックも、私たちの人生における聖母の価値を理解し、感謝することができるよう。

私たちは聖母マリアを崇拜しているわけではありません。しかし、その信心を貧しい人々への愛に根ざしたものとしましょう。聖母マリアを無視することはできません。そして聖書を学ぶときは、弟子としての観点から彼女を見つめましょう。

では、私たちはどうすべきでしょうか。崇拜するのか、無視するのか？兄弟姉妹の皆さん、もし二つの選択肢しか与えられていないのなら、三つ目を作りましょう——それは「ただ愛する」ということです。

主はすべての人を愛するように教えてくださいました。聖母マリアを含め、すべての人を愛しましょう。彼女を憎まず、無視せず、しかし感情だけで愛するのでもなく、もし本当に聖母を愛したいのなら、彼女の貧しい子どもたちを愛してください。それこそが、私たちが聖母を愛していることを彼女に一番よく伝える方法です。私たちは崇拜もしませんし、無視もしません。カトリックも反カトリックも、聖母マリアを愛しましょう。なぜなら、すべての人を愛することは美しいことだからです。